グループホーム（1ユニット）用
（様式１）

平成　27　年度

１　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1970800189		
法人名	社会福祉法人　泉茅会		
事業所名	グループホームめぐみSINCE2004		
所在地	山梨県甲斐市竜王644-5		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新１－２－１２
訪問調査日	平成27年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは甲府盆地を見渡す小高い丘陵に建ち、周辺地域には緑あふれる自然に恵まれた環境である。
ホームでは畑で野菜等を栽培し、収穫を楽しみにしている。利用者、職員と日々調理などをともに行っています。
また近隣に併設施設や医療機関が近くにあり連携を築いている。
笑顔で優しく接し、安心した生活をして頂けるよう努めている。
利用者のニーズを察知し、最優先にサービスの提供に努めている。
利用者の人格を尊重して家庭的な雰囲気で生活して頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小高い丘に位置し、南アルプスの山々も見渡せ、自然豊かな環境にある。2ユニット型の事業所はそれぞれ飾りつけも工夫され過ごし安い空間となっている。建物の中はスリッパを使用しないで利用者が安全な生活ができる様に努めている。職員は常に利用者の個々の様子を把握し、笑顔で丁寧な言葉かけをし、行動にあわせてゆったりと関わっている。併設している施設とお互いに連携を取り運営に反映させている。建物の中庭には、東屋があり、憩いの場となっている。保育園児や近くの小・中学生、また、地域の様々ボランティアを受け入れ地域とのつながりを大事にしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

調査シート（自己評価および外部評価結果　　**事業所名　グループホームめぐみSINCE2004**

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況）ユニット名（　A　）	自己評価（実践状況）ユニット名（　B　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、管理者と職員は常に念頭におき実践に努めている。	事務所内に事業所の理念が掲示してあり、共有しながら実践に繋げている。	法人全体の理念があり、運営方針が玄関に掲示されているので、毎日の出勤時個々で確認し、理念に沿って本人本位の支援に努めている。ホーム長・職員は日々その人らしく地域で暮らし続けられる様な継続的な支援につなげている。現在事業所独自の理念を検討中である。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等でボランティアの方々との交流の場を定期的に設けるなど配慮している。地域の園児学生にも来荘して頂き交流を持っている。	日常的な散歩や外出の際、地域の方と交流が持てるように配慮している。様々な行事でのボランティアの方とも交流を持てるよう努めている。	法人で行う「めぐみフェスタ」には、近所の方・家族が参加し親睦を図っている。保育園・小・中・高生がボランティアで訪問している。また、地域の中学生は、年2回独自のプログラムを作成して、事業所を訪問し利用者との交流を図っている。夏休みには職場体験を受け入れ、地域とのつながりを大切にして取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃より地域の方々に向け声かけを行い、グループホームへの理解を求めるとともに、気軽に訪問や相談をして頂けるよう努めている。	日頃より地域の方々に向け声かけを行い、グループホームへの理解を求めるとともに、気軽に訪問や相談をして頂けるよう努めている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回以上運営推進会議を開催し、サービスの実際や、取組みについて等報告話し合いを行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議にはご家族も参加して頂き、日々の状況報告を行い、意見交換の場として活用している。また実際に行事などへの参加も頂いている。	今年はこれ迄に6回運営推進会議を行い、運営委員には、近所の方が入り地域の情報を提供してくれ、利用者の散歩コースにカーブミラーの必要性を行政に働きかけ運営推進会議を活かした取組をしている。家族の参加は、順番に出席し、利用者も家族と一緒に出席する時もある。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修・情報交換会などに参加し、意見交換や情報収集を行っている。	運営推進会議に市職員の参加を頂き、実際の活動報告を行い相談するなどし密に連絡を取り合っている。	認定更新の機会等に市町村担当者へ、利用者のケアサービスや困難事例の相談を行い指導を仰ぎ連携に努めている。、	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回身体拘束防止委員会を開催する他、勉強会なども行い身体拘束についての理解に努め、ケアに活かしている。	身体拘束防止委員会を開催している。身体拘束ゼロの手引きにしたがって、現在も拘束を行わずケアに取り組んでいる。	毎月1回法人が行う身体拘束防止委員会では、内容は様々であるが、特にスピーチロック等についての学習を行い、職員は、お互いに注意し合い、日頃のケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	月1回虐待防止委員会を開催し、在宅や施設での虐待が見過ごされないように注意し、虐待防止の徹底に努めている。	虐待防止委員会を開催している。日々のケアの中でも言葉遣いなどに十分注意し虐待防止の徹底に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業所や成年後見制度についての資料等を閲覧できるようにしている。	職員が成年後見制度の研修会に参加し、理解、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明を十分に行っている。利用者やご家族等に不安や疑問がないか確認を行い、理解・納得の上契約の締結、解約等を行っている。	契約書、重要事項説明書の説明を十分に行っている。利用者やご家族等に不安や疑問がないか確認を行い、理解・納得の上契約の締結、解約等を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（　A　）	ユニット名（　B　）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の意見要望を日々の中からも伺うようにし、その情報を職員間で共有し運営に反映できるよう努めている。	運営推進会議において意見交換を行い、利用者やご家族の意見を表に出せる機会を設け、運営に反映している。	家族会があり定期的に清掃活動を行ってくれるので、その際に意見や要望を言える機会となっている。筋力低下防止に散歩を増やして欲しいとの要望を実践している。家族が手芸作品を持って来て、教えてもらいながら、利用者と一緒に作り、「めぐみフェスタ」に出品する提案があり運営に反映させている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や連絡帳等を活用し意見や提案の収集をしている。	職員会議や面談などを設け、意見や提案を聞く機会を持っている。	職員会議での情報は、連絡帳で共有している。職員は利用者との日頃の係わりの中から、体格の良い利用者には、シャワーチェアーの大きい物がお互いに安心して対応できるので、会議等で話し合い、出された意見が反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めている。給与水準、労働時間、やりがいなどを持って働けるよう、就業環境の整備に努めている。	職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めている。給与水準、労働時間、やりがいなどを持って働けるよう、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力を把握し、内部・外部の研修を受ける機会を持てるよう取り組んでいる。	職員個々の能力を把握し、内部・外部の研修を受ける機会を持てるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの研修による受け入れや情報交換を行い、サービスの質の向上に反映させている。	他施設からの研修による受け入れや情報交換を行い、サービスの質の向上に反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行いご本人の不安や要望に傾聴する。声かけコミュニケーションを十分に図り、安心した生活ができ、信頼関係が築けるよう努めている。	アセスメントを行いご本人の不安や要望に傾聴する。声かけコミュニケーションを十分に図り、安心した生活ができ、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には担当者会議を開催し、ご本人・ご家族の不安や要望に耳を傾けるように努めている。	入所時には担当者会議を開催し、ご本人・ご家族の不安や要望に耳を傾けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントと、担当者会議におけるご本人ご家族の意向に耳を傾け、必要としている支援を見極め実際のサービスに反映させている。	十分なアセスメントと、担当者会議におけるご本人ご家族の意向に耳を傾け、必要としている支援を見極め実際のサービスに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを職員と一緒に行い、自己決定や選択など共に暮らす関係に努めている。	できることを職員と一緒に行い、自己決定や選択など共に暮らす関係に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　A　）	自己評価（実践状況） ユニット名（　B　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族双方の立場を考え、より良い関係が築いていけるよう職員・家族と共にご本人を支援していけるよう配慮している。	ご本人、ご家族双方の立場を考え、より良い関係が築いていけるよう職員・家族と共にご本人を支援していけるよう配慮している。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出・外泊などの機会が持てるよう支援に努めている。	面会、外出・外泊などの機会が持てるよう支援に努めている。	仕事関係の方から、初めて面会があり、利用者に伺った上で了解を得るなどの安心な対応をしている。家族と一緒の墓参り、美容師の娘さんが迎えに来て自宅で調髪する事、利用者が安心して眠れるように夕方、家族からの電話を取次ぎ等、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、性格等を把握しながら、日常生活の中で利用者同士が分かりあい、支え合い円滑な関係となるように努めている。	利用者同士の関係、性格等を把握しながら、日常生活の中で利用者同士が分かりあい、支え合い円滑な関係となるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談や支援に努めている。	契約終了後も、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議でご本人、ご家族の希望や意向を聞いてその希望に沿った生活をして頂く。また、日々のコミュニケーションからも意向をくみ取りその後の支援に活かしている。	サービス担当者会議でご本人、ご家族の希望や意向を聞いてその希望に沿った生活をして頂く。また、日々のコミュニケーションからも意向をくみ取りその後の支援に活かしている。	入居時に生活歴等の情報を把握して、日頃の係わりの中で声掛け、言葉や表情などから、職員全員が利用者の一人ひとりの思いや意向について把握するように努めている。把握困難な利用者には、入浴支援時などに職員が昔の話を聞いた中から対応し理解してもらうことで喜ばれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより生活歴、健康状態、趣味嗜好、生活環境などこれまでの生活状況を把握している。	アセスメントにより生活歴、健康状態、趣味嗜好、生活環境などこれまでの生活状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方、心身状態、残存能力等現状の把握に日々努めている。	個々の1日の過ごし方、心身状態、残存能力等現状の把握に日々努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の様子をもとにご本人、ご家族、職員の意見やアイディアを反映して、現状に応じた介護計画を作成している。	日々の生活の様子をもとにご本人、ご家族、職員の意見やアイディアを反映して、現状に応じた介護計画を作成している。	事前調査で計画担当職員が介護プランを作成し担当者会議で家族に提出している。最初は3か月に1回基本的には6か月に1回の見直しを行う。生活記録・連絡帳・チェックリスト等で確認しアセスメントを含め、職員全員で意見交換を行い、ライフサポートプランにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録に日々の様子やケアの実践とその結果等も記録し、職員間での情報共有に努めている。介護計画の評価、見直しに際しても生かしている	個々の生活記録に日々の様子やケアの実践とその結果等も記録し、職員間での情報共有に努めている。介護計画の評価、見直しに際しても生かしている		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　A　）	自己評価（実践状況） ユニット名（　B　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、また健康　喜び　安心のある生活が送れるよう、様々なニーズに対応できるよう柔軟に取り組んでいる。	本人やご家族の状況、また健康　喜び　安心のある生活が送れるよう、様々なニーズに対応できるよう柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、近隣の保育園や小、中、高校生との交流、理容サービスなど豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。	ボランティア、近隣の保育園や小、中、高校生との交流、理容サービスなど豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は必ずご本人、ご家族合意の上かかりつけ医にて適切な医療が受けられるよう支援している。	受診は必ずご本人、ご家族合意の上かかりつけ医にて適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者の多くが、入居前のかかりつけ医が協力病院の医師なので、そのまま継続をしている。契約時に説明をして了解を得ている。受診時は基本的に家族の付き添いだが、困難な時は、家族の意向を聞き、法人内のヘルパーが同行受診支援をしている。受診時の情報は、家族・職員が確認をして共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化など看護職員に相談している。状況により医療機関への連絡、指示をもらい適切な受診や看護を受けられるように支援している。	状態の変化など看護職員に相談している。状況により医療機関への連絡、指示をもらい適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診を通じて日頃から情報交換を行っている。入退院時には病院と随時連絡を取り合っている。またぬぐみフェスタなどの行事を通じて交流を図っている。	定期受診を通じて日頃から情報交換を行っている。入退院時には病院と随時連絡を取り合っている。またぬぐみフェスタなどの行事を通じて交流を図っている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と検討し、事業所でできることを十分に説明を行っている。医療機関とも方針を共有し支援に取り組んでいる。	ご本人、ご家族と検討し、事業所でできることを十分に説明を行っている。医療機関とも方針を共有し支援に取り組んでいる。	利用者の身体の状況によって、本人や家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり、納得して終期が迎えられるように取り組んでいる。また、併設の施設と重度化について情報を共有し施設全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修により事故発生時の対応に備えている。また緊急時のマニュアルも用意しており、適切な対応に努めている。看護職員により救急法の指導を受けている。	内部研修により事故発生時の対応に備えている。また緊急時のマニュアルも用意しており、適切な対応に努めている。看護職員により救急法の指導を受けている。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を年2回行っており、避難経路の把握に努めている。	災害時の避難訓練を年2回行っており、避難経路の把握に努めている。	マニュアルを作成し、法人と一緒に年2回訓練を行っている。夜間想定で、併設の職員も一緒にグループホームの火災を想定して訓練を行っている。法人として、防災計画・備蓄品等もあり施設全体で、支援体制の整備に取り組んでいる。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	（14）	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	職員のオリエンテーションの際、プライバシーについて学習をしている。利用者の人格を尊重し、個々に合った名前の呼びかけ、トイレ誘導の声掛け等、目立たずさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけに努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　A　）	自己評価（実践状況） ユニット名（　B　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定できるように言葉かけ、コミュニケーションを図っている。また、その雰囲気づくりにも配慮している。	希望や自己決定できるように言葉かけ、コミュニケーションを図っている。また、その雰囲気づくりにも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望やペースに合わせ、日々の生活を送って頂いている。随時希望を確認しニーズに沿った支援に努めている。	個々の希望やペースに合わせ、日々の生活を送って頂いている。随時希望を確認しニーズに沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の選択、自己決定を尊重している。その方らしいおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。	本人の選択、自己決定を尊重している。その方らしいおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を聞き、代替のメニュー提供を行っている。利用者と職員が一緒に食事の準備、片づけを行っている。職員も一緒に食事を食べながら対応している。また口腔体操を行い安全に食事摂取が続けられるよう支援している。	個々の嗜好を聞き、代替のメニュー提供を行っている。利用者と職員が一緒に食事の準備、片づけを行っている。職員も一緒に食事を食べながら対応している。口腔体操を行うことで安全に食事摂取が続けられるよう支援している。	利用者から好みの物などを聞き、法人で献立を作っている。利用者と一緒に作った野菜を、その日の献立に使い食事を楽しみ、夏には、施設の中庭でバーベキューをしていろいろな場面で食事への関心を引き起こす工夫をしている。利用者が盛り付けを手伝い、食事を一緒に味わいながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立にて栄養バランスのとれた食事提供を行っている。食事、水分量は毎食チェックし個々の状態や習慣、嗜好に応じた支援を行っている。	栄養士による献立にて栄養バランスのとれた食事提供を行っている。食事、水分量は毎食チェックし個々の状態や習慣、嗜好に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、又は介助を行っており口腔清潔を保っている。状況によっては口腔清拭を行い口腔内の確認を行っている。	毎食後、口腔ケアの声かけ、又は介助を行っており口腔清潔を保っている。状況によっては口腔清拭を行い口腔内の確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、習慣を把握し支援を行っている。できる限りトイレでの排泄ができるように対応している。	個々の排泄パターン、習慣を把握し支援を行っている。できる限りトイレでの排泄ができるように対応している。	排泄チェック表で状況を把握し、可能な限りトイレでの排泄が出来るように支援をしている。自らトイレに行く利用者には、さりげなく見守り生きる意欲や自信につながる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立にて食物繊維や水分確保が取りやすい食事提供に努めている。散歩や日々の生活の中で適度な運動を行ない便秘予防に取り組んでいる	栄養士による献立にて食物繊維や水分確保が取りやすい食事提供に努めている。散歩や日々の生活の中で適度な運動を行ない便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り個々の希望に沿った入浴日、入浴時間を提供している。	出来る限り個々の希望に沿った入浴日、入浴時間を提供している。	入浴は基本的には2日に1度で午前、午後も利用できる。入浴は利用者同士や職員とのコミュニケーションの場でもあるので1人30分位ゆっくり利用して楽しんでいる。好きなシャンプーを使う利用者もいる。また、入浴拒否の利用者には、時間を見計らって声掛けの工夫をして対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名（　A　）	ユニット名（　B　）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、その時の状況に応じて自由にお部屋で休んで頂いたり、安眠して頂けるよう支援している。室温の管理や、不眠の際には職員とお茶を飲んだりして対応している。	個々の生活習慣や、その時の状況に応じて自由にお部屋で休んで頂いたり、安眠して頂けるよう支援している。室温の管理や、不眠の際には職員とお茶を飲んだりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が使用している内服についての目的、用法や用量について理解し、服薬の支援に努めている。また症状の変化、内服の変更等あった場合には確認に努めている。	個々が使用している内服についての目的、用法や用量について理解し、服薬の支援に努めている。また症状の変化、内服の変更等あった場合には確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味嗜好、現在の力などを理解することで、日々の楽しみや気分転換を図れるように支援している。	個々の生活歴や趣味嗜好、現在の力などを理解することで、日々の楽しみや気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩以外にも、季節に応じた行事の外出やご本人の希望に沿った外出が出来るよう、ご家族への対応を行っている。	日々の散歩以外にも、季節に応じた行事の外出やご本人の希望に沿った外出が出来るよう、ご家族への対応を行っている。	一人ひとりその日の希望に添っての散歩や近くの公園に出掛けたり、一緒にゴミだしを行い、あらゆる場面で五感刺激の機会としている。お花見・紅葉狩りは、運営推進会議の行事として、メンバーも一緒に参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や力に応じてお金の所持ができ、使えるように支援している。	個々の希望や力に応じてお金の所持ができ、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に応じて、電話や手紙などを使用して自由に連絡が取れるよう支援している。	個々の希望に応じて、電話や手紙などを使用して自由に連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに季節感を取り入れた掲示物飾り付けを行い、居心地良く過ごして頂けるよう支援している。不快や、混乱が無いよう配慮しいている。	共有スペースに季節感を取り入れた掲示物飾り付けを行い、居心地良く過ごして頂けるよう支援している。不快や、混乱が無いよう配慮しいている。	食堂は天窓があり自然の光が差し込み柔らかい雰囲気である。フロアには、ソファーがあり観葉植物や景色を見ながらくつろげ、一部には畳のコーナーがあり、利用者が、選択物をたたみ、冬は炬燵で団らんの場となる。厨房は対面で利用者も手伝い安く調理の匂いもし食欲をそそる。浴室は楕円形で広く安心して利用できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファー、畳の間、こたつが用意されており、利用者同士が思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。	共有スペースにソファー、畳の間、こたつが用意されており、利用者同士が思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の自宅で使い慣れたタンスなどの家具を持参できるようにし、居心地の良い環境で過ごして頂けるよう配慮している。	個々の自宅で使い慣れたタンスなどの家具を持参できるようにし、居心地の良い環境で過ごして頂けるよう配慮している。仏壇を持ち込んでいる方もいる。	各部屋の入り口には、それぞれ違ったノレンが掛けてあり、ドアが開いていても部屋の中は見えない様になっている。訪問客の多い利用者はソファーが置いてあり、普段は、ソファーでテレビを見ながら好きな編み物をして居心地よく過ごせる様工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には表札を付けたり、入り口にはのれんを個々で変化を付けたり利用者自身で分かるように配慮している。	居室の前には表札を付けたり、入り口にはのれんを個々で変化を付けたり利用者自身で分かるように配慮している。		